## 念禱「あなたが私を 祝福するまで、私は あなたを離しませ ん」(Ⅲ)

戦いは夜に繰り広げられます。それは信仰で生きるでまる信仰の他に主と顔と顔とうわせるための手段はありまたちが灯すのはたちとの出会いを望む生ける方への信仰です。

2024/10/30

シリーズ: 戦い、親しさ、使 命 (5)

念禱「あなたが私を祝福するま で、私はあなたを離しません」 (Ⅲ)

これまでの記事を読む

## 暗闇と試練の中で

戦いは夜に繰り広げられます。それは信仰で生きる夜です。信仰の他に主と顔を合わせるための手段をありません。私たちの探求は「行われたちの信仰とは、わたしたの信仰とは、わたしたのます。「その信仰とは、わたしたのではなく(それが訪れれば歓迎し、ではなく(それが訪れれば歓迎し、

去ればそれでよしとします) 純粋な 理性でもありません。私たちは精神 的な〈曲芸〉をするのではありませ ん。私たちが灯すのは、私たちとの 出会いを望む生ける方への信仰で す。信仰において、私たちは感覚の 即時性も、論理の明確さも持ち合わ せていません。私たちは直観の時ま で、薄明かりの中を歩んでいます。 しかし、信仰の暗闇はより遠くを見 ることを可能にします。昼間、私た ちの視界は数十キロメートル先まで 届きますが、夜には何百万光年も離 れた天体を見ることができます。信 仰は私たちに新しい世界を見せてく れます。

観想の戦いはまた、落胆や乾燥、信仰の疲れ、さらには多くの財産を持っているために主に完全に身を委ねないことの悲しみ(マルコ10・22節参照)にさえも直面することも意味します。または、時に私たちのものとは非常に異なって見える神の論

理に対する内なる反抗心や、それが 自分には向いていない、その感性が 自分にはないという思いと向き合う ことを意味します。「私は幻想に 浸っているのではないか?いったい 何の役に立つのだろう。あまりにも 神秘主義的ではないか? | この時、 ヤコブは戦うのをやめることもでき たでしょう。実際、彼は戦いながら ためらいを感じたかもしれません。 しかし、彼は戦い続けました。私た ちは、愛の道、つまり信頼と委託の 道を歩んでいることを思い出しなが ら、固い決意を持って幼子の心で前 進していかなければなりません。

黙想の祈りが道のりに着目するものだとするならば、観想はその目指すものに目を向けることだと言えます。私たちは自分が一緒にいたいと望む方と共にいます。今、私たちは徳や決心、闘いについて考えません。それらはすべて黙想で取り扱います。私たちの時間、私たちの時間

の空白は今、彼の存在だけで満たさ れています。私たちは望みを燃え上 がらせ、渇望し熱望し天国を先取り します。天国の大きさは私たちの望 みの大きさに比例します。神への渇 き、「神の涙のわけを悟りたい、神 の微笑み、神の顔を仰ぎ見たいとい う熱い望み」「ヹです。そしてその願 いを持って平和に満たされて観想の 道に入るとき、私たちは命を歩む者 となります。「そうなると、捕われ 人、虜になったように感じる。そし て、力に限りがあり過ちを犯しつつ も、最善を尽くして、職業上、身分 上の義務を果たしているならば、心 はそこから逃れて神に向かうことを 熱望する。ちょうど鉄が磁石に吸い 寄せられるようにしる。

ヤコブは、神が出会いに来た場所に たどり着くまで、長い時間歩かねば なりませんでした。そこには同伴者 はいませんでした。聖書は、この出 来事は彼が一人になったときに起

こったと伝えています。また、彼は 荷物も持っていませんでした。持っ ていたすべてのものを川の向こう岸 に渡したばかりでした(創世記32・ 24-25参照)。そして「夜」が必要 です。つまり、その交流には心を静 めることが求められるのです。「こ の格闘のときばかりは、彼はどうす ることもできず、その狡猾さも何の 役にもたちません。もはやその策略 も打算も通用しません。 (...) その とき彼は、自分の弱さ、無力さ、そ して罪を神にさらけだすしかないの ですして、神は、彼が無防備で、気 をそらす他のものから解放されてい る時に、彼を探しに来ます。なぜな ら、観想するためには、自由と心の 開放が必要だからです。自分の小さ さを認識し、出会いを願うこと以外 に何も必要ありません。もし私たち の心が他のもので満たされているな ら、私たちが待ち望む方は現れませ ん。彼と共にいること以上に大きな 渇望があってはなりません。

- [1] カトリック教会のカテキズム、2709番。
- [2] 聖ホセマリア『神の朋友』310 番。
- [3] 同、296番。
- [4] フランシスコ、一般謁見演説、 2020年6月10日。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/combat-closeness-mission5-3/(2025/12/16)